



視点 21

『70代でも代表作を描く』

一陽会 絵画部 運営委員
泉谷 淑夫



昨年の10月で私も70歳になった。ちなみに一陽会ももうすぐ70歳、メンバーが高齢化するわけである。しかし問題は年齢ではない。絵を描く一人の作家として「若さ」があるかないかだ。「若さ」とは「未熟」「未完成」を自覚して、まだまだ私には絵でやれることがあるはずだと、自らを奮い立たせる意欲である。私事になるが、2019年10月から2020年1月にかけて、静岡県伊東市にある池田20世紀美術館で大掛かりな個展を開催した。67歳の時のことである。その時のあいさつ文に「70代でも代表作を描きたい」と記した。これは老境に差しかろうという自分に鞭を入れるべく、あえて挿入したフレーズである。世の中に長生きした画家はたくさんいるが、晩年に代表作と呼べるものを描いた画家は決して多くはない。

例外は北斎で、有名な《神奈川沖浪裏》は70代の作と言われる。その後も北斎はすさまじいエネルギーで肉筆画の大作なども手掛けている。作家にとって要注意なのは、老いと共に付いてくる名誉や社会的な地位である。これが「若さ」を保とうという気概にそっとささやきかける。「もう十分じゃない?」「ずいぶん頑張ったし、こんなに認められているのだから。」そう言われて「上がり!」と思ってしまう気は誰にでもある。北斎は最後まで一介の町絵師を貫いて精進したため、その陥穽に落ちなかったのだろう。

私が代表作の量にこだわるのは、西洋の画家に比べて日本の画家は代表作が少ないからだ。画家として大成功を取めたルーベンスは別格としても、短命であったラファエロやカラヴァッジョ

にも代表作はたくさんある。そんな思いから「70代でも代表作を」となったのだが、今年はその年になってしまったので、通算38回目となる横浜高島屋の個展のキャッチコピーも「70代の新たな一歩」としてみた。幸いコロナ禍でも制作のペースは落ちなかったので、41点の新作を揃えることができた。私は持続型なので、コツコツ描いているうちにいつの間にか作品がたまっていく。横浜高島屋の個展に限っても1997年から数えて25年、その間に12回の個展を開催した。同じ会場でこれだけ長くやっていると、まさにマンネリとの闘いでもある。これは公募団体展とも似ているが、異なるのは個展ではたくさんの小品も描くことである。私は毎年どこかで個展を開いているので、これまでにどれだけの小品を描いたかは想像

もつかない。しかしその結果、たくさん描くことで画力を磨いてきたことは間違いない。逆説的だが、それこそがマンネリに陥らない秘訣でもある。そういう経緯を人は「努力」の賜物というが、私は「努力」とは思っていない。絵を描くのが好きで「夢中」でやってきただけのことである。「夢中」とは子供時代の特権で、何でも夢中でやっている間は「浦島太郎現象」と言って、人は年を取らないというのが私の持論である。その真偽はともかく、近年の私は視力の低下や声量の衰えを感じるようになった。やはり老いは確実に忍び寄っている。今後は「若さ」を保つ闘いが待つことだけは確かなようである。



鈴木信太郎賞

絵画部会員 生田裕人



制作を支えてくれるのは資料ですが、自分の目と手と足で得ないと良い資料になりません。公園でカメラを構える行為が犯罪のように見なされる世の中になり眠る公園のための資料がだんだん撮りにくくなってきたとき地下ホームの端が助けてくれました。「間もなく・・・」は列車到着前のアナウンスの一部です。今回3作目でようやく視点の高さの問題に気づけました。資料を得るために出かけるのですが、かがんでカニのように移動しながらシャッターを切れる時間帯は限られます。ホームドアが次々と設置され、いい感じの構造を見つかることが難しくなっています。新たな情景を捜さないといけないでしょう。自分の制作を阻む最大の強敵は「飽きる」で、同じような絵を描く苦行を避けるためには良いかもしれません。老化で制作が叶わなくなるまでの時間を無駄にしないよう、悪あがきを続けたいと思っています。

野間仁根賞

絵画部会員 福山歩由美



令和元年の9月に私の住む千葉市付近に台風が上陸し、私も後に引っ越しをすることになったほど、記録的な暴風などで大変な被害ができました。大人たちは復旧作業に右往左往し、悲壮感すら漂う世の中に一晩で一変しました。

それでも子供たちは、あどけない笑顔で無邪気に遊ぶのです。そんな姿を見て「この子たちの笑顔は大人が守ってあげなくちゃ!この子たちの未来にはこんな天災がありませんように!」と、台風一過の秋空に願った事を、無邪気な笑顔で遊ぶ子供と、その向こうに台風での倒木を描く事で、私の記憶と作品に残しました。

その後2年連続で一陽展(本展)が中止となり、作品の発表も遅れ、台風被害の記憶もすっかり過去のものとなりつつあります。

高岡徳太郎賞

絵画部会員 太田信三



以前の一陽展の出品作品の中に、蓮の葉を描いた素晴らしい作品があり、私も挑戦してみたいという想いがありました。そして、晩秋の上野不忍池を訪れ、一面枯れ果てた蓮田の風景を目にした時、これなら出来るかも知れないと思立ち、撮影した写真を元に、構図を考え、制作を開始しました。そして1年後に、ほぼ出来上がったのですが、コロナ禍で一陽展が中止となり、発表の場が繰り延べとなった為、浮いた時間を最大限活用し、じっくり腰を据えて問題点をチェックし、修正に努めました。その結果、細部に至るまで、満足の行く仕上がりにすることが出来ました。すなわち、この出来栄は、延期がもたらしてくれた余裕の賜物です。

題名は、取材した折、都会の喧騒の中にあっても、それを感じさせない、静かにたたずむ蓮の姿が印象的だったことから、静謐という言葉が最も相応しいと考え、命名したものです。

野外彫刻賞

彫刻部運営委員 小林一夫



コロナ禍、自分なりの表現がどうあるべきかゆっくり考えることができた。大きな転機となった3年間である。今までは、展示空間を新たな空間にすることをインスタレーションで発表してきた、一陽会野外展示では不完全燃焼であった分、個展等に力を入れた。今回自分自身の原点も回想してみた。高校時代の美術の授業で、初めて木彫の頭像を彫った。「傑作だ、デッサンは狂いながらも、荒々しい力がある」と美術教師に絶賛された。大学一年夏休みの石井鶴三の彫塑教室で初めて裸婦に挑んだ。ベテラン美術教師の前で、「デッサン力は無いが、生命観に溢れている」と褒められた。当時は「こんなへたくそな仕事でいいのかな?」と思いつつも、彫刻家になろうと拍車がかかった。こんな原風景を思い出しながら、これからの方向を探った。もっと力強く、原始的なパワーのある、現代人が忘れて来たような、粗野で、未完成で、原始宗教的な、縄文人のような世界観のあるものを作ろうと考えた。器用になりすぎた己への戒めでもある。

一陽賞・会友推挙

絵画部 安富洋貴



「夜の根拠」をテーマに、夜の持つ静寂と自由と透明感を描いています。

寝静まった無人の街、降り続く雨の煌めき、光を透過する透明ビニール傘の質感と、闇の中で微かに漂う気配……。

夜という無限の深みを有するモノクロームの風景は、誰もが持っている彼方の記憶を喚起し、意識を、画面の奥へと吸い込むように誘います。

そんな拠り所たる夜が持つ、どんなに描き重ねても失われない透明感、吸い込まれるような独特の色彩を求めて、鉛筆という素材に辿り着きました。

また鉛筆は、下地の紙の色を透かして窺わせ、白い物や光を際立たせ、闇から光への移ろいを滑らかにしてくれます。

幾十、幾百と鉛筆の筆致を重ね描くことで、想いを織り込み、画面が、「夜の根拠」へ近付けるよう、これからも精進したいと思います。

一陽賞

彫刻部 古場勇士



私は、これまで、人体を主題として彫刻を制作してきました。この作品は、これまでの学びの集大成として制作したものです。この作品の制作をするに際し、私は、彫刻家石井鶴三の彫刻観について研究しました。石井鶴三は生涯のうちに多くの塑造と木彫の作品を制作し、それぞれの作品に素材ならではの魅力が感じられました。私も塑造の経験を活かした木彫作品の制作を目指しました。また、研究を通して、木取り、こなし、粗彫り、小造り、仕上げという木彫の制作工程を分けることが木彫ならではの表現に繋がる重要な要素であると感じ、本作品の制作では石井鶴三の彫刻の大胆な木取りとこなしによるエッジの効いたキュービックで凛とした美しい造形を目指しました。

青麦賞・会友推挙

絵画部 岡恵美子



出品作〈ファンタジア〉は「KID 'DREAM」をテーマにしたシリーズの一作です。子供のおもちゃを題材に、現代の不安や秘められた希望を夢と重ねて物語の一場面として描いています。

子供自身は出てきませんが、背後に子供の視線を感じるよう、あるいは童心を忘れないよう自身に願って描いています。また、「恐竜」の表すものは外部の「悪」だけでなく、自分自身の心にも潜む「悪」であるとの自戒をこめています。

巣ごもり生活が続ける中でも子供たちは本を読んだり、絵を描いたり、音楽を奏でたりAIで動くロボットと遊んだりといった楽しいひと時も持てます。「恐竜」が表す様々な困難や苦しみ、不安の中でも、理不尽な現状としての「恐竜」が実は打ち負かすべき「悪」としてではなく、人を成長させ遅く、創造豊かにしうる友として共存できればとの願いで描いています。

青麦賞・会友推挙

彫刻部 松本淳志



2018年、一陽会で初入選を果たした。実に16年ぶりの作品制作と展覧会への出品であった。18歳で彫刻の世界に出会い、どっぷりとめり込んだ。無数の彫刻の先達や先生方に出会い、夢中で自分の作品を追いかけた。しかし、制作すればするほど自分の進むべき方向が見えなくなり、やがて言葉にできないほどの重たい感情に押しつぶされ、彫刻の世界から距離を置くことになった。仕事と家庭生活に埋没していく日々の中で、ある時ふと、頭の片隅に彫刻のイメージがよぎることがあった。「もう忘れろ」、何度も自分に言い聞かせてきた。複雑で鬱々とした感情は、長い年月をかけ、ようやく薄らぎ、消えかけてきた。ある時、16年ぶりに母校の彫塑教室で、制作の機会を得た。久しぶりに触る粘土の心地よい感触、イメージが形となり、命を宿していく過程で得られる彫刻特有のあの高揚感。長い間、彫刻制作から目を背けてきたが、ようやく素直に「彫刻をつくりたい。」「自分には彫刻が必要だ。」と思えるようになった。ずいぶんと遠回りをしてしまった。年に一体、作品を制作し、出品しよう。無理なく持続可能な制作を続けよう。そんな大きな野望を思い描いている。

土方明司賞・特待賞

絵画部 出村谷幸子



私は「魂」をテーマに作品を制作しています。物質的な肉体は、いずれ朽ち果てていく運命を背負っていますが、それとは別に魂というものが存在していると感じます。幼き肉体に宿る魂は、知識や体験が少ないというだけで、そ

れはもう、一つの立派な魂であり一人前の活動を開始します。また、経験を積み重ねた魂は、その肉体をも飛び越して生き生きと活動を繰り広げます。たとえ、肉体に不都合なことがあろうとも、魂は常に自由であると感じるので。人智を超えた魂のイメージは、以前より私の心の中に存在するものでしたが、はっきりと感じたのは、中国の兵馬俑を見た時です。土製の人物像がまるで生きてるように迫ってくる印象に、強烈な魂を感じました。それはまるで空気中に漂っていた魂が適切に整えられた造形物に宿ったようでした。形を持ち色彩を纏う魂のイメージは、その形状をアメーバのように変化させて蠢き、文様となって私の作品上に可視化します。

瑞繪賞

絵画部会員 荒川幸知子



小湊鉄道(千葉県)では現在でも大正時代の駅舎が使われている。

20数年前それらの駅舎を描き始めた。3年位経った頃先生から「目線を下げて線路だけを描きなさい」とアドバイスを受ける。上総

鶴舞と言う駅がある。鉄道は単線のためすれ違う駅が上総鶴舞駅。引き込み線は廃線となっていてさらに無人駅でもあったため、構内に入り線路に這いつくばって撮影することが出来た。何の変哲もない廃線の景色から一変、線路本体やそれを構成している鉄部品、枕木、道床などが大げさに言えば、自分の役目を終え誇らしげに鎮座している景色に変わった。少なくともわたしにはそう見えた。「廃軌道」との付き合いの始まりである。その毅然とした姿とも見える部分や枕木、道床に魅せられ描いて20年余り。鉄の部分はさびが進み変形したり枕木も朽ちていたりするが頑張れと励みしながら、それらの頑張りにわたしも励まされ描き続けている。

スカラベ賞

彫刻部運営委員 小林達也



第24回(1978年)一陽展に初出品以来欠かすことなく、野外会場に参加させて頂きました。故横沢英一先生を支持し大学を卒業以来、一陽会の諸先輩方の指導があつてこそ続けて来られたと思っています。東京都美術館で開催されていた一時代は、

室内会場の手狭さもあり、また野外彫刻のブームのお陰であったかも知れませんが、美術館裏の野外展示会場いっばいに展示された光景は今では懐かしい思い出です。しかし、今では街中のパブリックアートも衰退し、作家が制作環境を維持する事も難しく、携わる作家も少なくなりましたことは誠に残念です。現在の国立新美術館野外会場はコンクリートの塀と地、空間は無機質であり展示作品は環境に左右されることなく鑑賞される。野外彫刻の本来の姿は、狭く仕切られた空間ではなく人が営む町や自然な生活の中にあつてこそ役立つものと思っております。近年、小生の作品は、茨城県つくば市市庁舎前に作品寄贈設置、桜川市真壁町の石材業者鬼沢商店庭園に多くの作品を展示していただいています。誠に有り難く思っております。



スカラベとは……

別名タマオシコガネ、コガネ虫科の甲虫の一種。ファーブルの『昆虫記』で有名。この虫を意味する語が生成の意味にも通じ、天地創造の神、また球状の玉を転がす習性から古代エジプトでは太陽の神の象徴として神聖視され、これを型どって護符した。護符は貴石や陶器などで作られ、装飾品や印章としても用いられた。ミイラの心臓の上に置かれたものは、復活を祈願するという意味をもつ。(広辞苑、および百科事典マイペディアより抜粋)

美術団体一陽会を創立した際、シンボルマークとしてスカラベを冠したことは、大先輩の諸先生たちの慧眼にほかならない。一時はこのスカラベを軽視するかのような向きもあったが、反省と自戒を込めて第59回展で、復活したものである。

会員賞

絵画部 篠崎 聡



団地サイズの6畳間で描く作品の大きさは、100号が限界と考えていました。出品する度に会場の広さに圧倒されていました。キャンパスを2枚重ねることを知り、自分の制作環境に合った形で描いた3作目になります。自宅では

繋げた状態で見えることも描くことも困難ですが、5年は続けようと挑戦しています。2.6mの縦長の画面は特徴的で上下の内容のバランスやつなぎ目の内容に悩まされます。水上艇の丸窓を中心とした先端部がちょうど画面にはまり、人物のポーズと配置を決めました。金属的な雰囲気の中での閉塞感や飾り気のない平素な服に同じく耐え忍ぶ心持ちを表しました。動物は従順に人に寄り添い追随するものとして表しています。今回の作品はコロナ感染流行のため、自分の表現に向き合い描きこむ時間がありました。完成とした作品を見直す時間があつたことも加筆する機会になったと思います。

会員賞

絵画部 福島涼子



モンサン=ミシェルは、フランス西海岸サン・マロ湾に浮かぶ小島に聳える修道院。ある日、一人の司教の夢に大天使ミカエルが現れ、岩山に礼拝堂を建てるように告げたという伝説があります。

私とモンサン=ミシェルとの出会いは学生の頃、これを描いて欲しいと渡されたポスターの写真でした。いつの日かその地を訪れたいと夢想していたことが現実になり、モンサン=ミシェルの前に立った時は無心に絵筆を握っていました。

この「開闢」は予期せぬコロナ禍になった世の中を、どうすることもできないまま時間だけが過ぎていく、無力さと不安な生活が続いた頃に描きました。

霧がかり先の見えない毎日を光溢れる希望の明日になるように浄化し、恭しく美しい世界の到来を天に祈りつつ、心から願いを込めて一心に描きました。

この賞を頂けたことを励みにこれからも精進していきたいと思ひます。

会員賞

絵画部 山崎泰司



思いがけず賞を頂き有難うございました。私にとって絵画は希望を繋ぐもの。気が付けば長い間水彩画を描いています。

水彩紙に「アクリル」絵具 連作「花鳥譜」シリーズは海を「テーマ」に「変形200号」で制作いた

しております。既成の概念にとらわれず制作しているつもりですが、なかなか簡単には進みません。

自分で決めなければなりません。絵は技術ではなく、創造性、感性が大切だと信じ、可能な限り目的を持って描いて行きたいと思ひます。

会員賞

彫刻部 北沢 努



37回展の初出品から今年で31年目になります。ブロンズを素材にした裸婦像を8年、人体と樹木を構成した森と空の風景を6年、石膏を素材に降雨を表現した造形を5年、廃材、石膏、ブロンズを素材に木と人体を構成した造形を12年。31年間実験的な表現に挑戦できたのは、一陽展という贅沢な発表の場の提供があつたからに他なりません。そして、その試行錯誤が実を結び、国際展での受賞にもつながりました。

また、7年前の評論家土方明司賞に引き続き、今回の大変名誉ある会員賞は生涯一度限りと聞いております。誠にありがたく、今後の制作活動の励みになります。

これまで野外展示で追求してきた風景彫刻シリーズは、インスタレーションに傾倒しながらも伝統的な素材と現代的な素材を生かした造形でした。

今後は、より魅力的な一陽会彫刻部ならではの野外展示へと展開させるため、新たな表現に挑戦したいと考えております。

会友賞・会員推挙

絵画部 小池華子



今年で油絵を学び始めて10年目の節目の年になります。

感覚的に絵を描くタイプです。資料は参考程度に、頭の中のイメージが一番大切にしています。そのため、色の表現など自分の中で優先順位の低いものはおろそ

かになってしまいがちで、今後の課題は多いです。

フクロウを主人公に据え描いてきましたが、少し変化させていきたいと考えています。あくまでもフクロウたちを中心に、とりまく環境や状況を変えてみます。見ている人に「ん？」と目を留めてもらえるような物語を作っていきます。自分の絵についてあまり説明したいタイプではないので、見た人が感じたことは全て正解だと思っています。ちょっと不思議でこの世に実際あるような無いような世界を楽しんで描いていきたいと思っています。

会友賞

絵画部 渡邊光章



今回の受賞作品について二つのエピソードを申し上げます。

一つ目は、過去の作品はF100号で出展しておりましたがある友人から、あの広い館内の中で2階建ての展示では小さく見えるねとの一言。

二つ目は、コロナ災いで中止が重なり時間的に余裕が出来たこと。すでに完成作品(F100)として出展予定を没にして、この構図ならF150号でも耐えて呉れるだろうと思い、改めて一から描き直してみました。予想通り例会で好評を得、先輩方のアドバイスも経て無事出展することが出来、しかも念願のとてもいい場所に展示していただきました。

制作期間中は、妻の介護も含めて時間に制約ある中で、余裕のある作品ができたことはコロナのお陰と申しても過言ではないでしょう。



会友賞・会員推挙

絵画部 佐々木康樹



風景画が好きだったこと、妻が日本画をやっていたことなどから、退職を契機に水彩画を始めた。

遅かった焦りもあって、且つ、あれも描きたい、これも描きたいと欲張り性分も手伝い、やみくもに色々描いてきました。しかし、出来た作品は当初思い描いた様にはいかない。これは自分が何を描きたいのか、どの様に表現するのか、的確に定まっていな事に起因している様に感じています。

今回の作品も最終に至るまで、二転三転しましたが幸運にも受賞出来ました。

つまるところ、一つの作品が出来上るまでには、何度も何度も試みる事が大切であることを痛切に感じ、これからはめげずに、楽しく描き続けたいと思います。

会友賞

彫刻部 清水啓一郎



本作は私の最初の恩師の作風をオマージュし、生まれ故郷の海をモチーフに制作したもので、私の想う“美しいこと”が集約された作品です。

きらめく海のをそのまま掬い上げるような、水面に揺れる太陽の光をも形にできはしないかと、童心を手繰り寄せるような心持ちで制作に取り組みました。

完成後いつになく清々しい気持ちになれたのも、自分の作品に心がざわつくのも、置き去りにしてきた根幹の何かをかすめるようなアプローチがほんの少し出来たからなのではないかと感じています。今後そのモヤの向こうにどれくらい向き合えるのか、新たなテーマを得た思いです。

素直に自己と向き合った作品に対し、身に余る賞を頂けたこと、彫刻部の松井先生から素直で良いとお褒めの言葉をいただいたことは大変光栄で、励まされるとともに身の引き締まる思いであります。今後も誠心誠意精進する所存です。



会員推挙 絵画部 今井由夫



以前、オーケストラの演奏を聴く機会があった。暗闇の中で一生懸命演奏する人、何もかも忘れ聴き入る人。猛烈な地響きと爆風、そこに見えないはずの人生のドラマが垣間見える。

そうだ！私の絵画に音楽を取り入れよう。私は、音楽は不得意だが、それ故に憧れはある。幼い頃遊んだ玩具の楽団と、楽器の響く音と風、目に見えない色、きっとそこにドラマがある。40年間、中断していた絵筆、思うような絵が描けない。苦しみもがく。と或る日突然、勝手に絵筆が動き、素早く仕上げた。そして、夜遅く画室のキャンパスから、玩具の楽団が飛び出して「おもちゃのチャチャチャ」と歌ってる…。やがて眠りにつく。

或る日突然は夢、この夢こそ私が描きたい絵画。

会員推挙 絵画部 岩野美紗子



絵を描き始めました頃、私は自分の周りの小さな幸せの中で、美しい物、感動した物を描いて居りました。ところが最近になり、そんな自分自身に風穴を空ける様な作品を作ってみたく考える様になりました。

現世から逃れていく馬の姿、戦火の中で途方に暮れる人々…

なかなか自分の想いと、表現する力が上手く結びつかないまま、迷い、立ち止まり、そして、覚束ないまま絵筆を握っています。

ただ一步一步、自分の描きたいモノを自分なりに描いていこうと思っています。

会員推挙 絵画部 大島満男



小さい頃から描くことが好きだった。忙しい時には「絵ばかり描いていないで手伝いをしろ」と叱られたことも度々。いろいろなものを描いていたが、いつの間にか古木をモチーフにするようになった。

古木には何故かひかれる。古木を写生するために根尾の淡墨桜、石徹白の大杉をはじめ大きな木、古い木を探してあちこちと歩きまわった。特に淡墨桜の木の肌や形はおおいに参考になった。しかしキャンパスに出てくるものは、自分の中であれこれと分解して再構築したものである。以前はそれでも古木らしい形をしていたが、最近では古木とは思えないものになっている。しかし土台になっているのは古木である。この度会員推挙を頂いて光栄です。会員として恥ずかしくない作品を作っていきたい。

会員推挙 絵画部 金田真由美



カラスは一般的にあまり良いイメージがなく、不吉と思われがちです。一方で、スピリチュアル性が高く神の使いともいわれています。未来をも見通せそうな鋭い眼光がそれを物語っているようです。

今回の絵は「夜が明ける前の街を鋭い目で見下ろし、活動開始の合図を待つカラス」を表現しました。獲物をとりに行くのか、はたまた神のお告げを人間に伝えるに行くのか…。

未だに納得のいく作品は描けません。不器用で筆を動かすスピードは超低速です。しかし、自分がワクワクするものをベースに置きつつ、これからも挑戦し続けていきたいと思えます。

会員推挙 絵画部 神戸貞子



令和4年は、記念の年になりました。一陽会にて、孫の誕生と、葉を共に歩んでまいりました。このミナスの葉は、私を画してと言わんばかりに、次の年から9年間二度と出現しない不思議な葉です。私に密着して離れませんでした。

ウィキョウにしがみ付き青空を見あげている青虫。アーティーチョークに群がるてんとう虫。鋏を手にした私に、ほほえみと一休みさせてくれます。この自然の平和のオーラがこの場に感じ、敬虔・高雅・勤勞の気がほんの少しでも画せれば幸いです。あとは、雨水の恵みを待つばかりです。

会員推挙 絵画部 黒川秀夫



童謡「ふるさと」の歌詞に「兎追ひしかの山 小鮎釣りしかの川…」とあります。私の絵に対する情熱は自分の人生経験すべてを絵に注力すること、それが絵の「独自性」「創造性」を生むものと確信しております。小学生時代「兎」でなく「蝶」を追いつけておりました。大人になってもその憧憬は強く「蝶」を描く事で満たされました。

一陽展の出品作は「蝶」をテーマに、いかに「密度」をあげて画面一杯に蝶を描く事に鋭意努力しました。

今度の会員推挙を機に今後は「密度」から「表象」を課題に蝶の絵に取り組んで行きたいと思えます。

会員推挙 絵画部 後藤 杏



翼を広げ、大空をはばたく鳥の姿にも惹かれますが、それ以上に、動きを止め、じっとたずむ彼らの姿やその表情に強く惹かれます。見つめれば見つめるほど、目が離せなくなるのです。

私がよく足を運ぶ動物園には、フラミンゴ舎があります。思い思いに時を過ごす、色鮮やかなフラミンゴたち。一見穏やかな光景ですが、彼らのまなざしは意外に鋭く、ドキッとさせられる瞬間もあります。静かにたずむフラミンゴたち。しかし、こちらが油断したその瞬間、一気に赤く激しく燃え上がる炎のような生命力を秘めたその姿を描きたいと思い、制作に取り組みました。

描きたい鳥たちはまだまだたくさん。彼らと向き合い、制作を続けて行きたいと思えます。

会員推挙 絵画部 小林八重子



第68回一陽展は、コロナ禍でも三年振りに無事開催をして頂け皆様の力作がズラリと並んでいたのが印象に残っております。

私は「宴のあと(午後の視線)」の題名で、役目を終えたモノタチを中心にそれ等を生み出す人間社会の場である都市をマチエールとし、人も物資同様次なる役を待ち望んでいる。

リアルティ―と動を出すべく知恵有る鳥を描き込み、今後の行方は?と鳥達も興味津津…そんな思いで進めて参りました。

次作はどのように展開すればと、日々悩んでもいます。自分自身が納得出来る絵作りをこれからも続けて行ける事こそ、幸せだと思っております。

会員推挙 絵画部 白川幸子



宙から見た地球は美しい。近年我が町では木々の緑が少なくなってきた。そこで微力ながら何かを復活させようと庭に蝶が集まってくる花木を植えた。すると鳩が巣を作り、水槽にはヤゴが棲み、日だまりにはトカゲの親子がはりついている。楽しい庭になった。昨年植木鉢の中に白黒の子猫が眠っていた。愛するオーレリアンの庭は波乱の幕開けとなった。

時は進む。このところ時空というタイトルで制作している。今や世界は大波乱の真只中だ。我が家の波乱も世界の波乱も大小様々な事象を積み込んでいる。

使わなくなった小さな物たちも混入させてみた。時を作っている。やがて私も青味がかった灰白色の作品の中へ入ることになる。

会員推挙 絵画部 谷口紳一



銀紙を画に選んだのは、画題に困っている中、偶然の出来事で、女房が魚を焼く銀紙に、台所の物々の色が反射し、面白い景色がそこにあるのに気づいたのが始まりです。

私も女房も田舎を出て60年余、旅が今も続いております。帰る所もなく、二人共に宇宙をさまよいつつ故郷の地球を懐かしみ、恋しております。この気持ちをアルミ箔の小さな小舟に託して表現を試みているのが最近の作品です。単純故に構成が難しく難儀致しております。

84才を過ぎ、後何年絵を楽しめるかと思っている最中に、会員推挙の報に接し、諸先生・先輩に互して競い合えることは光栄の極みであります。

会員推挙 絵画部 檀野計藏



小学校の時から絵を見たりラクガキすることが好きだった記憶があります。学生時代は絵画部に所属していましたが、その時代は具体美術の影響を受けてか、筆で描いた事はありませんでした。部室に入ると先輩に誘われ学校の近くのマージャン屋に出入りするのが常でした。それから還暦まで絵に親しむことはありませんでしたが、ひょんなことから一陽会の水谷喜美子先生の所で月1回のデッサン会に参加し、今日に及んでいます。その後、関西一陽会を中心にラクガキ遊びが始まり、スケッチ旅行、美術館巡り、個展と時間の許す限り楽しみました。そこで多くの友人に恵まれ、本当に今思えば、ラクガキを続けていて良かったと思っています。ラクガキ、ラクガキに感謝、感謝です。

会員推挙 絵画部 寺脇圭子



私は大樹を描いています。大樹は生まれてからどんなに厳しい時にも、そこからどうにも逃げられない運命をひたすら同じ場所にずっと立ち続けて生き抜いています。その生き様を思う時、私は描かずにはいられない衝動にかられました。

この樹が何を思っているのか、何に喜び、何に悲しみ、苦しんでいるのか、今の私には到底わからない。大樹の前にして押し潰されそうになる力強さ、そして包容力はいったい何なんだろうか。とその魅力に取り付かれてしまいました。

この先ずっと大樹を見つめて、いつか心を通わすことができる日が来ることを信じて、私は私の道程を黙々と積み重ねていこうと思っています。

会員推挙 絵画部 平田千代子



描く、こねる、組み立てる、作るのが好きな私は、東京の小学校で図工の専科教師をしていましたが定年を迎え、千葉の海辺の町御宿へ引越しました。一陽会への出品はその頃からです。

若い頃、布を作る織り物に惹かれ、織り物の作品も作っていました。民族衣装を着て美しい織り物を作る中南米、グアテマラ、メキシコを旅して織り物ももちろん良かったのですが、黒人、白人、現地の先住民の人々が共に歌い、踊っている姿が楽しく、素晴らしかったです。

「太陽の歌(フォルクローレ)」は、そのような作品です。会員推挙!大変嬉しいことです。制作の方も新しい出発への突破口にしたいと思います。

会員推挙 絵画部 平山えり子



自宅近くの城趾公園の石垣上に、大きな洞のある大樹が立っていました。その姿と、樹の内から何かを語りかけているような感じに魅せられて、出品する作品のテーマにして表現してきました。幹に大きな裂け目と空間を抱えながら夏には豊かな葉を繁らせていたのに、ある日忽然と姿を消しました。公園の保全の為に伐採したのだそうです。大樹が過ぎてきた年月や空洞に包み込んだ世界に、その時々私の思いを重ね、伐採された後もその姿を借りて描いています。テーマの魅力は尽きませんが、模倣や立ち止まることにならぬよう、一作一作にしっかり向き合って制作していきたいと思

います。

会員推挙 絵画部 堀 英夫



作品は、仕事に関わった橋梁をモチーフにしています。設計業務で携わったので、工事完了後に注視する機会が少なく、あらためて絵画の対象として対峙すると仕事では気付かなかった橋梁の一面が見えます。橋梁のダイナミックさ・躍動感・構造美をあらためて再認識させられます。

制作にあたっては、対象とする橋梁の特徴を表せる視点、背景とのバランスと時間の設定に苦慮しています。

まだ、空気感や心象を表現するに到らず試行錯誤の段階ですが、わずかも満足できる絵画を描けるよう取り組んでいきたいと思

会員推挙 絵画部 水上さおり



絵を描き続けてきて、いろいろな題材を選んできました。その中で重要にしていることがあります。それは、なるべく写真などではなく、実際にその場で物、風景などを見て感じたことを表現することです。けれど、描いていると頭の中でイメージしている色、形と違ってしま

う。こうじゃないんだけどと思っても実力不足でうまくいかない。でも結果いい場合もあります。時には偶然も味方になってくれます。

これからも、自分の感性をいかしながら、さらに人との対話や気になる物事などに興味を持って、それを絵に描いていきたいと思っています。

会員推挙 絵画部 横山純子



この度、会員に推挙されましたこと、大変嬉しく思っています。一陽会に入会してから数年は、蓮に魅力を感じて、蓮の花や葉や実や蓮田の風景、蓮の実から連想した風景等蓮をテーマに描いてきました。その後、孔雀の羽やその姿、色に感動

しました。孔雀の羽の自然の色の素晴らしさ、特に青色の魅力は、はかり知れませんが、光によって変化する孔雀の姿を私なりに描こうと、数年は孔雀をテーマに描いてきました。作品「かたらい」は、2羽の雄の孔雀が後ろ向きで美しい羽を見せて横に振り向きながら、話し合っている様子を描きました。コロナ禍で人と話すことがままならなかった時があったからこそ、語り合うことの大切さを孔雀の姿を通して表したいと考えました。これからも、描き続けたいです。

会員推挙 絵画部 横山瑞歩



この度は会員推挙をいただきありがとうございます。ピラルクと女性の組み合わせで作品を作り始めてから6年近く経ちました。深みのある色合いと優雅に泳ぐ姿は、描けば描くほど魅力的なモチーフであると思

います。コロナ禍で実物を見に行くことが難しいのですが、めげずに頑張っていきたいです。私としては、就職してからいろんなことが目まぐるしく変化しておりました。それは刺激的である一方でどうしようもないやるせなさや寂しさを感じます。今まで、時間を主題として制作をしてきましたが、本作品では時間が経ち変化することへのやるせなさや寂しさを表現できたらと思っています。制作時間の確保が大変ですが、今後も頑張っていきたいです。



茨城県つくば市寄贈作品

2021年4月26日 つくば市市庁舎前広場



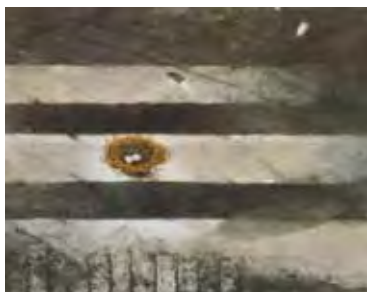
小林達也

DU NORD展

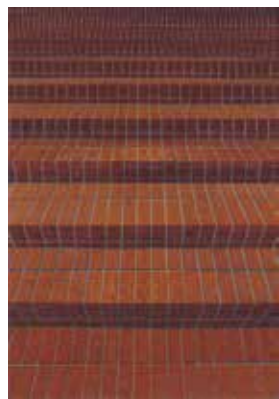
2022年2月21日～3月21日 SGT美術館第2展示室



藤田裕子



坂井幸子



本間くみ



小嶋英子

第15回 岡山県新進美術家育成 I氏賞 選考作品展

2022年2月1日～13日
岡山県天神山文化プラザ



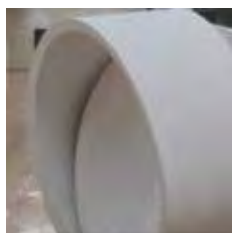
奨励賞 赤木秀明

第3回 一陽会関西支部彫刻展

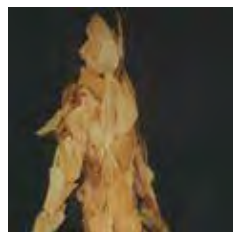
2022年3月1日～6日
原田の森ギャラリー東館1階



津野充聡



鎌田和見



前川芳輝



橋本雅美



島崎 将



生駒小織

伝えたいかたち

彫刻とドローイングVol.2 一陽会8作家

2022年3月24日～29日 ギャラリー&カフェ Zaroff



とさかすみ作品展

鳥の歌シリーズ【一粒の雫から】

2022年4月8日～17日
妙案GALLERY

彫刻部オンライン研修会
彫刻と言葉

2022年6月4日



講師 三井正人

松村一夫 展 一油彩と焼締陶一

2022年6月12日～18日 マサゴ画廊



ガラス絵コクリコ会展

2022年3月25日～4月24日
SGT美術館第2展示室
古賀敦子 加納勝子 川口文子
永井富美子 大塚幸子



彫刻部オンライン研修会
境をまぎらかす

2022年7月30日



講師 松井勲尚

2022 第5回 日本アクアレックロ巡回金沢展

2020年8月24日～29日 きんしんギャラリー



松原照代



**インスタレーション3人展
大場吉美×齋藤久子×三井泰子**

2022年10月4日～16日
石川国際交流サロン

**第9回
21世紀関西女性絵画展**

2022年10月5日～16日
兵庫県立美術館ギャラリー棟
3階ギャラリー



古野恵美子

鈴木力 回顧展

—「蒼天に輝く」ふるさとを描く—

2022年10月22日～11月27日
弥彦の丘美術館



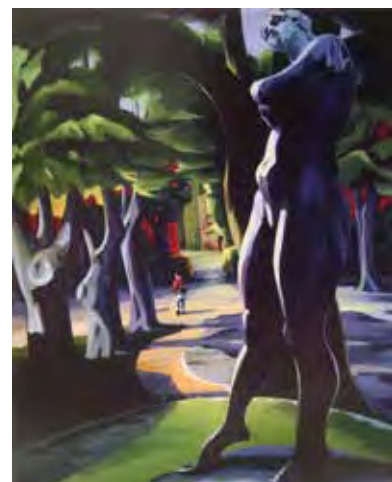
古野恵美子 展

2022年11月1日～20日 ギャラリーなかむら



山本正臣 作品展

2022年10月28日～30日
富山県民会館3FギャラリーD



第33回 美浜美術展

2022年11月23日～12月1日
美浜町生涯学習センターなびあす



入選 甲賀 保

阿部知暁 絵画展

2022年12月14日～20日
大丸東京店10階美術画廊



夜想曲 安富洋貴 鉛筆画展

2022年11月29日～12月5日
そごう千葉店7階美術画廊



楠森道剛 展 麟～RIN～

2022年12月20日～25日
ギャリエヤマシタ2号館1階



中村義孝 彫刻展

2023年1月1日～9日
ギャラリーザザ



まほろば 佐久に咲く 素描展 2021

2021年11月11日～21日 ギャラリー絵夢 小松富士子

2022 女流画家協会展

2022年6月7日～13日 東京都美術館 塩川慧子

東京支部 TOKYO

■一陽会東京支部の活動

今年は日常に戻り制作に没頭したいものです。
第27回東京支部展を6月に開催いたします。楽しい
展覧会になると思います(高岡徹)

■第26回 一陽会東京展

会期/2022年5月28日(土)~6月4日(土)



会場/東京都美術館(上野)

○特別出品(絵画)

千葉支部:

荒川幸知子 生田裕人 宇梶陽子 河野緋沙子
木下由美子 黒川秀夫 古賀敦子 篠崎総
早瀬淳男 山崎泰司 山口陽子

○特別出品(彫刻)

高橋正晴 土井敬真 林田 滋 三井正人

○受賞者

東京一陽賞 渡辺通子
特待賞 野澤宜夫
奨励賞 太田信三
東美賞 小林真央

■第27回 一陽会東京展

会期/2023年5月28日(日)~6月4日(日) 予定

会場/東京都美術館(上野)

○特別出品

千葉支部(絵画)

山本映子 岩野美紗子 神戸貞子 小林八重子
佐々木康樹 白川幸子

長野支部(絵画)

碓田順彦 やまぐちかずお 市川孝子 小池華子
峯村欣弘

(彫刻)

八木ヨシオ 高橋正晴 土井敬真 林田 滋
三井正人

■個展 グループ展

●大地(GROUND)現代美術作家展

2022年3月23日~4月4日
企画:池之端画廊 千年画廊伊之助 武田守弘

●春の会 2022年4月9日~17日

銀座ギャラリー サムホール 高岡 徹

●第3回 玉川大学・玉川学園学友会文化・芸術展

2022年5月10日~22日
玉川学園内STREAMHALL2020 小林達也

●7月版画の杜展 2022年6月21日~7月2日

えすばすミラボオ 小林ミイラ

●CADAQUESミニプリント展

2022年7月1日~9月31日
CADAQUES(スペイン) 小林ミイラ

●二人展 2022年7月10日~31日

企画:千年画廊伊之助 武田守弘

●友軌展 2022年8月15日~21日

ギャラリー暁(銀座) 太田信三

●グレートリープ特別展 2022年8月23日~29日

世田谷美術館 藤田裕子

●第17回会津美里町総合美術展(招待)

2022年8月31日~9月8日
じげんプラザ じげんホール 三浦安針

●ART WAVE 新宿現代美術展

2022年9月7日~14日
ヒルトピアアートスクエア(新宿) 磯崎式子

●サロン・ドトーマ 2022年10月20日~24日

ラ・ヴィレット グランド・ホール(パリ) 小林ミイラ

●遊・桜ヶ丘現在進行形2022サテライト展

2022年11月4日~14日
ギャラリー由芽のつづき(三鷹市) 武田守弘

●交差する異視点 2022年11月7日~12日

ギャラリー暁(銀座) 磯崎式子

●華百彩展 2022年11月7日~12日

ギャラリー志門(銀座) 磯崎式子

●第II回 荻の会 2022年11月14日~11月20日

ギャルリ Vent 伊沢良子

●12月展 2022年11月30日~12月14日

京橋 白銅鞮画廊 高岡 徹

●「十」の眼展 2022年12月5日~11日

ギャラリー暁(銀座) 磯崎式子

●けいちつ展 2022年12月12日~19日

サブウェイギャラリーM(横浜) 太田信三

●新春ガラス絵展 2023年1月9日~15日

銀座ギャラリー サムホール 高岡 徹

●第46回 油彩作品展一麦会

2023年1月16日~23日
ギャラリーくぼた(京橋) 山田幸彦

●春旬会 2023年2月4日~2月13日

ランプ坂ギャラリー 飯澤公夫

●鉛筆ドローイング4人展(仮)

2023年2月6日~11日
ギャラリー志門(銀座) 磯崎式子

●モノクローム-monochrome展

2023年2月13日~18日
ギャラリーSTAGE-2(銀座) 磯崎式子

●現代アーティストセンター展

2023年2月21日~28日
東京都美術館 武田守弘

■支部の主な役員・会議開催等

○支部長 高岡 徹(統括責任、審査委員)
○事務局 藤田裕子(杉山 司)
○会計 山田幸彦 安田 操
○会計監査 高岡 徹 小松富士子
○各種会議進行 小林達也 小松富士子
○ホームページ 飯澤公夫
第1回 役員会議 2022年10月15日開催
第2回 役員会議 2022年12月4日開催
第3回 役員会議 2023年2月末開催予定
(藤田裕子 記)

関西支部 KANSAI

◇主に2022年2月~2023年1月

■はじめに

コロナとの共存の流れの中、例年通りの活動が戻って来た一年であった。また大阪市立美術館の大規模改修工事に伴い、2022年度の巡回展は、支部会員の尽力により宝塚市立文化芸術センターでの開催となった。

■第60回 関西一陽展 2022年3月16日~21日

大阪市立美術館地下展示会室
今回は60回記念という事で、支部会員による第60回記念小品展のコーナーが設けられた。テーマは「60」。大作では見ることのできない別の一面が感じられたと大好評だった。

〈出品状況〉 絵画 138点 (初出品4点)
彫刻 12点

〈特別展示〉 大西正雄(絵画)
〈入場者〉 2,211人

〈第60回 関西一陽展受賞者〉

関西一陽賞 喜多誉子(絵画)
大阪市長賞 藤林文子()
大阪府教育委員会教育長賞 島崎 将(彫刻)
ホルベイン賞 山本 学(絵画)
関西瑞繪賞 松村祐一()

奨励賞 木寅 勉(絵画)

下坂雅俊()
横田真吾()

新人賞 由谷孝子()

会友賞 巽富士子()

60回記念賞 谷口紳一()

M賞 福島涼子()



第60回 関西一陽展授賞式の様子

■第68回 一陽展(巡回展) 12月8日~13日

宝塚市立文化芸術センター(兵庫県宝塚市)
初めての会場、また従来と比べてかなり狭いスペースでの展示となったが、支部会員皆様のご協力のもと、無事開催することができた。アクセスがしにくい場所にもかかわらず多くの来場者があった。

〈出品状況〉 絵画76点 (内巡回17点)
版画 4点 (すべて巡回作品)
彫刻13点 (内巡回4点)

〈入場者〉 968人

■関西支部会員による一陽会の展覧会

●一陽会関西支部彫刻展 2022年3月1日~6日

兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー
津野充聡 鎌田和見 前川芳輝 橋本雅美
生駒小織 島崎 将

●2022一陽会関西作家展 6月14日~19日

西宮市立北口ギャラリー(兵庫県西宮市)
安孫子百合 上田純子 大西正雄 大東明宏
奥谷卓則 尾島 守 川邊嘉章 楠森道剛
古曾成樹 墨川廣徳 隅田博美 高孝壬津子
巽富士子 たつみゆうこ 田淵幹夫 丹後香子
檀野計藏 辻マサオ 中田絵里 永田和行
永田啓子 南谷昌二郎 新村則一 西浦まゆみ
西尾昭子 西山真理子 橋本紀夫 平田せつ子
福島涼子 福家省造 藤田安臣 藤本元美
古野恵美子 松村一夫 三阪雅彦 水谷喜美子
溝下美代子 三村恵理 三好利治 山下潤志
渡邊光章

■支部会員(委員、会員、会友)の活動について

コロナ禍中ではあるが、精力的に制作し、発表する活発な活動が行われた。

■支部会員の個展

●特別集中展示 安富洋貴[Score]

5月10日~15日
天神山文化プラザ第4展示室(岡山市)

●松村一夫 展 2022年6月12日~18日
マサゴ画廊(大阪市)

●中田絵里 BUNKI展 7月20日~24日
兵庫県立美術館
王子分館原田の森ギャラリー本館1F

●古野美恵子 展 11月1日~20日
ギャラリーなかもむら(京都市)

●北川徳子 水彩画展 11月10日~15日
ギャラリー香(大阪市)

●楠森道剛 展 麟~RIN~ 12月20日~25日
ギャリエヤマシタ2号館(京都市)

●70代の新たな一歩 美しい響き 泉谷淑夫 展
2023年1月18日~23日 高島屋 大阪店

■支部会員のコンクール、企画展への参加

●谷岡久とその系譜 4月20日~26日
中土佐町立美術館(高知県) 福家省造

●アートオリンピア2022
6月23日~28日 起雲閣(熱海市)
上田純子(佳作賞) 尾島守(佳作賞)
松村一夫(佳作賞)

●第36回 京都芸術祭美術部門 国際交流総合展
10月18日~23日 京都市美術館別館2F
福家省造 安孫子百合

●第39回 京都水彩展 2月22日~27日
京都市京セラ美術館 谷口紳一(京都新聞社賞)

●守口市美術展覧会 11月13日~16日
守口市役所内ホール 水谷喜美子(審査・出品)

●第76回 堺市展 11月16日~20日
堺市立文化館ギャラリー 上田純子

●第39回 FUKUIサムホール美術展
11月26日~12月11日 金津創作の森美術館
隅田博美(あわらし市長賞)

●第31回 川西市展 2023年1月31日~2月4日
キセラ川西プラザ文化棟
大東明宏(審査・出品) 松村一夫(審査・出品)

●第31回 川西市展 2023年1月31日~2月4日
キセラ川西プラザ文化棟
大東明宏(審査・出品) 松村一夫(審査・出品)

●第31回 川西市展 2023年1月31日~2月4日
キセラ川西プラザ文化棟
大東明宏(審査・出品) 松村一夫(審査・出品)

■支部会員のグループ展などへの参加

●第17回 アートフォーラム宇治AFU美術展
3月10日~13日 宇治市中央公民館
福家省造 永田和行

●第17回 アートフォーラム宇治AFU美術展
3月10日~13日 宇治市中央公民館
福家省造 永田和行

●第38回 FR展 3月20日~24日
宇治市生涯学習センター 奥谷卓則(講師)

●第37回 U美展 4月1日~3日
宇治中央公民館 福家省造(講師)

●第20回 エル・ポルト洋画展 4月19日~24日
西宮市立市民ギャラリー 藤本元美(講師)

●同じ刻を生きる作家展7 6月7日~12日
京都市美術館 福家省造

●第78回 亜士会展 6月17日~22日
オプトギャラリー 永田和行

●第3回 京都教育大学アートフォーラム展
6月28日~7月3日
MEDIA SHOP gallery1&2(京都市) 福家省造

●第29回 心に響く小品展 6月28日~7月10日
ギャラリーヒルゲート 古野恵美子

●第14回 真夏のアートフェスティバル
7月15日~15日 ギャラリー菊 山下潤志

●兵庫県美術作家協会会員展 7月27日~31日
兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー

●大東明宏 尾島 守 中田絵里 藤本元美
津野充聡 鎌田和見

●第40回 京都水彩会員・会友作品展
7月26日~31日 京都市美術館別館 谷口紳一

●ヴィジョンネア展 9月27日~10月2日
法然院講堂(京都市) 福家省造

●第9回 21世紀関西女性絵画展 10月5日~16日
兵庫県立美術館ギャラリー 古野恵美子

●第9回 現代美術ZEROの視点 10月10日~15日
ギャルリー志門(東京都) 尾島 守 松村一夫

●第17回 イーゼル会展 10月27日~31日
ふりーすべーす宇治日和 福家省造(講師)

●京都芸術大学洋画研究室教員展 11月1日~6日
ギャラリーヒルゲート 古野恵美子

●第17回 麟美会展 11月3日~8日
心齋橋筋故大丸画廊(大阪市) 谷口紳一

●第50回記念 宇治市民絵画展 11月10日~13日
宇治市中央公民館 福家省造 永田和行

●第18回 SalonDO 11月11日~16日
守口文化センターエナジーホール
安孫子百合 高孝壬津子 田淵幹夫 檀野計藏
西山真理子 水谷喜美子 森本正義

●ヴィジョンネア展inカオスの間 11月20日~30日
ギャラリーカオスの間(京都市) 福家省造

●ハクの会展 11月22日~27日
京都文化芸術会館 福家省造 奥谷卓則

●第11回 月曜会作品展 11月29日~12月4日
西宮市立市民ギャラリー(西宮市) 山下潤志(講師)
下坂雅俊 吉岡浩一 大西美陽子

●橋本美術同好会(透明水彩) 12月8日~14日

●橋本美術同好会(透明水彩) 12月8日~14日

●橋本美術同好会(透明水彩) 12月8日~14日

デュオこうべ 橋本紀夫

●次代を創る展 12月12日~17日
ギャラリー菊(大阪市) 山下潤志

●迎春エト・アール展「卯年」
2023年1月8日~21日
アートのスペース袖(京都市) 福家省造

●京都野外彫刻展 12月3日~18日
京都府立植物園 島崎 将(招待)

●第4回 ねこアール展 12月18日~25日
アートのスペース袖(京都市) 福家省造 安孫子百合

●第30回 折々の作家たち展
2023年1月10日~23日 ギャラリーヒルゲート
古野恵美子

●ヴィジョンネア展 2023年1月17日~29日
ギャラリー翔(京都市) 福家省造

●ヴィジョンネア展 2023年1月17日~29日
ギャラリー翔(京都市) 福家省造

■関西支部としての会議、打ち合わせなど

巡回展、関西一陽展等について、事務局を中心に次のような会議、打合せを行ってきた。

●事務局会議(会場=主に、エル・おおさか)
*支部会議および展覧会の前に随時開催

・ 1月10日 新年総会に向けて

・ 4月24日 第68回一陽展について

・ 10月23日 第59回関西一陽展実施について

・ 12月18日 決算総会に向けて(同日、会計監査)

●支部会議(会場=主に、エル・おおさか)
・ 1月23日 年度当初総会
(年間計画、予算、第60回 関西一陽展準備など)

・ 5月8日 第68回 一陽展について (同発送事務)

・ 11月6日 第68回 一陽展巡回展について (同発送事務)

・ 12月25日 決算総会 (第61回関西一陽展発送事務)

・ 2023年1月22日 年度当初総会

◇2023年3月以降の予定

●第61回 関西一陽展
3月28日~4月2日 京都市京セラ美術館

●一陽会関西作家展
6月13日~18日 西宮市立北口ギャラリー

●第69回 一陽展(巡回展)
10月24日~29日 京都市京セラ美術館

●第69回 一陽展(巡回展) 10月24日~29日 京都市京セラ美術館

●第69回 一陽展(巡回展) 10月24日~29日 京都市京セラ美術館

●第69回 一陽展(巡回展) 10月24日~29日 京都市京セラ美術館

事業部 大東明宏 尾島 守
会計監査 大西正雄 隅田博美
相談役 運営委員・委員
(古野恵美子 記)

千葉支部 CHIBA

■支部活動

●新春サムホール展(委員・会員 26名出品)
1月18日 ギャラリー金巴里

●総会/やよひ展打合せ
1月16日(10:00~) 県立美術館講堂

●第3回 千葉やよひ展(23名出品)
3月10日 画廊ジュライ

●準備会 第45回 千葉一陽展について
3月13日(13:00~) 県立美術館講堂

●第45回記念 千葉一陽展
6月15日 千葉県立美術館

●幹事会
12月11日(13:30~) 県立美術館講堂

■個展

●濱田清の世界展 2月3日
千葉市民ギャラリー・いなげ/旧神谷伝兵衛稲毛別荘

●佐々木英子 展
9月7日 GALLERY ANDLINKS81

●生田裕人 個展
11月3日 画廊ジュライ

■グループ展・その他

●洋画グループ展 1月4日
千葉信金中央支店 里地芳美

●ギャラリー・いなげ新春展 1月4日
千葉市民ギャラリー・いなげ 福山歩由美

●新春ガラス絵展 1月10日
ぎやらいいサムホール 川口文子 古賀敦子

●Luana展 1月25日
千葉市民ギャラリー・いなげ
佐々木英子 白川幸子 白川雅義 細野美佳

●一耀会展 2月10日
画廊ジュライ 講師: 濱田 清

●DU NORD展 2月21日
SGT美術館 小嶋英子 坂井幸子 本間くみ

●美術で変えるII 3月14日
ギャラリー暁 大北節子

●ガラス絵コクリコ展 3月25日 SGT美術館
古賀敦子 大塚幸子 加納勝子 川口文子
永井富美子

●ガラス絵コクリコ展 3月25日 SGT美術館
古賀敦子 大塚幸子 加納勝子 川口文子
永井富美子

●ガラス絵コクリコ展 3月25日 SGT美術館
古賀敦子 大塚幸子 加納勝子 川口文子
永井富美子

●ガラス絵コクリコ展 3月25日 SGT美術館
古賀敦子 大塚幸子 加納勝子 川口文子
永井富美子

- いちご会展 4月12日
千葉市民ギャラリー・いなげ 小林八重子
- 白鯉グループ展 5月17日
ギャラリーカフェ白鯉 佐々木英子
- みなづき展 6月7日
ギャラリー金巴里 構成員多数参加
- 総美展 6月13日
五井会館 里地芳美
- 野田美術会小品展 6月14日
興風会館 鹿又保子
- The16th Japanese Selected Artists in NY
6月27日 Caelum Gallery 大北節子
- 彩趣会展 7月1日
翠光舎 講師：鹿又保子
- 千葉県水彩会展 7月5日
千葉県立美術館 鹿又保子
- 絵画グループ(α)展
千葉市民ギャラリー・いなげ
白川幸子 白川雅義 細野美佳
- ante展 7月11日
Salon de G 大北節子
- ミニチュア展 9月7日
ギャラリーカフェしろむじ 佐々木英子
- 合同展 9月13日
千葉市美術館 小林八重子
- メント・モリ展 10月12日
ギャラリーカフェしろむじ 佐々木英子
- 金巴里展 11月2日
ギャラリー金巴里 構成員多数参加
- セレクション展 11月2日
ギャラリーカフェしろむじ 佐々木英子
- グループa展 11月6日
東京交通会館 福山歩由美
- 袖ヶ浦美術展 11月16日
袖ヶ浦市根形公民館 白川雅義
- TALグループ展 第1期 11月16日
ギャラリーカフェしろむじ 佐々木英子
- DEUX展2022 11月22日
千葉市美術館市民ギャラリー 里地芳美
- TALグループ展 第2期 11月23日
ギャラリーカフェしろむじ 佐々木英子
- 野田美術会展 12月14日
さわやかちば県民プラザ 鹿又保子
- The17th Japanese Selected Artists in NY
12月19日 Caelum Gallery 大北節子
- アートで語る展 12月19日
ギャラリー暁 大北節子
- コンクール・その他

- 鋸山美術館コンクール
1月 鋸山美術館 褒状 小林八重子、里地芳美
- 第53回 千葉市展
3月 千葉市美術館
美術協会賞 福山歩由美
市長賞 白河幸子
教育長賞 小松正宏
文化連盟会長賞 長島文子
美術館長賞 黒川秀夫
- 第1回 グレートリープ展
8月 世田谷美術館
優秀賞 生田裕人 古賀敦子
奨励賞 福山歩由美 山田久子 牧内弘明
- 第71回 千葉県展
10月 千葉県立美術館 (会員以上無鑑査)
常任理事出品 濱田 清
理事出品 細川 尚 大久保綾子 宇梶陽子
大北節子 山崎泰司
会員出品 坂井幸子 河野緋紗子 山田久子
篠崎 聡 楠 忠臣 小嶋英子 山本映子
中村竹子 里地芳美 早瀬淳男 山口陽子
黒川秀夫 生田裕人 植村節子 前野啓子
岩野美紗子 小林八重子
小松幸廣 牧内弘明
- 会員推挙 三瓶繁男 鈴木信博 細野美佳
●県展賞 山本映子
●県立美術館長賞 釘持哲男
●柏市長賞 杉山 豊
●奨励賞 長島文子
●入選 安藤 均 岡 俊江 白川幸子
白川雅義 土居由利子
- 第9回 飯田弥生賞展
11月 飯田弥生美術館
飯田弥生賞 福山歩由美
奨励賞 岡 俊江 白鳥 寛
(大北節子 記)

神奈川支部 KANAGAWA

- 支部活動
- 支部展
6月14日(火)~19日(日) 横浜市民ギャラリー
◇1月
- 鎌倉美術連盟「新春ギャラリー展」公募展
鎌倉生涯学習センターギャラリー 横須賀康子
- 第8回新春プチパン展 グループ展
仲通ギャラリー 村杉哲子

- 第7回 鋸山美術館コンクール 公募展
鋸山美術館 緒方かおる
◇2月
- 7COLORS グループ展
並樹画廊 緒方かおる
- 第3回 明日のつばさ展(運営)グループ展
みなとみらいギャラリー 緒方かおる
◇3月
- ガラス絵コクリコ展 グループ展
SGT美術館 吉野すみ子
- 第31回 虹の会展 グループ展
アートガーデンかわさき 緒方かおる
- 第10回 横浜開港アンデパンダン展 公募展
横浜市民ギャラリー／伊勢山皇大神宮 緒方かおる
◇4月
- 第99回 春陽展 公募展
国立新美術館 井口英資
- 第8回 かみはてくねん会展 グループ展
ギャリエヤマシタ1号館(京都) 緒方かおる
◇5月
- 第16回 横浜美術協会会員会友展 グループ展
横浜市民ギャラリー 村杉哲子
- ◇6月
- 第40回 茅ヶ崎美術家協会展 公募展
茅ヶ崎市美術館 横須賀康子
- 第72回 藤沢市展 公募展
藤沢市民ギャラリー 菊池秀代
- ◇7月
- 第5回 水彩プチパン展 グループ展
仲通ギャラリー 村杉哲子
- 2022(45回記念展)第45回 DAN展 グループ展
みつゐ画廊 緒方かおる
◇8月
- 第1回 グレートリープ特別展
世田谷美術館 今井由夫 緒方かおる
◇9月
- 第46回 藤沢市美術家協会展 グループ展
藤沢市民ギャラリー 菊池秀代
- 第1回 グレートリープ大賞展巡回展
SGT美術館 今井由夫 緒方かおる
- 第17回 とつか美術会公募展 公募展
さくらプラザ3Fギャラリー 緒方かおる
◇10月
- 第43回 藤沢市芸術文化展 グループ展
藤沢市民ギャラリー 菊池秀代
◇11月
- 第78回 2022ハマ展 公募展
横浜市民ギャラリー 村杉哲子 井口英資
- Goo-zen展 グループ展

- 画廊ラミア(表参道) 村杉哲子
- 第74回 中美展 公募展
東京都美術館 緒方かおる
- 第48回 現代動画展 公募展
東京都美術館 緒方かおる
◇12月
- アンチーム展 グループ展
ギャラリームサシ 吉野すみ子
- 2022アンデパンダン小品展 グループ展
万国橋ギャラリー 緒方かおる
- 「ありがとうのいろ」個展
並樹画廊 緒方かおる
(緒方かおる 記)

中部支部 CHUBU

- 支部活動
- 第58回 中部一陽展
5月3日~5月6日 愛知県美術館 ギャラリー 8F
〈出品者24名 絵画28点・彫刻2点 合計30点〉
〈受賞者〉
(絵画)
中部一陽賞 亀山敏子
中日新聞社賞 上田多津子
東海テレビ放送賞 佐々木美樹子
奨励賞 伊藤知佐子 片岡重保
近澤美穂子 岩田悠子
- 〈出品者〉
(絵画) 大島満男 岡本勇夫 小畑恭子
片野泰人 久保田正剛 小菽達也
鈴木啓子 西脇義照 野田美子
松原美幸 山田晃平 山田芳之 横山満津子
(彫刻) 田口哲也 森島昭道
- 第48回 岐阜一陽展
6月14日~6月19日 岐阜県美術館 一般展示室
〈出品者17名 絵画31点・彫刻2点 合計33点〉
(彫刻) 森島昭道
(絵画) 大島満男 小畑恭子 久保田正剛
小菽達也 西脇義照 野田美子
山田晃平 山田芳之 横山満津子
- 第68回一陽展
10月5日~10月17日 国立新美術館
〈受賞者・初入選者〉
(絵画)
奨励賞 片岡重保 亀山敏子
会員推挙 大島満男
会友推挙 岩田悠子
初入選 片岡重保

●第23回 陽友会展
11月1日～11月6日 名古屋市民ギャラリー栄
大橋壯久 小畑恭子 久保田正剛 野田美子
山田晃平 山田芳之

●中部一陽会 打合せ
3月13日 毎日文化センター会議室

■個人活動
◇2022年4月

●養老絵画教室作品展
大垣西濃信用金庫本店 西脇義照

◇5月
●蒲郡市春の文教まつり 絵画展
蒲郡市博物館ギャラリー
岡本勇夫 鈴木啓子 片野泰人

●第78回 六酔会展
大垣市文化会館 森島昭道 山田芳之

●第64回 大垣美術家協会展
大垣市文化会館 久保田正剛 小藪達也
西脇義照 森島昭道 山田芳之

◇6月
●小藪達也展-水のある風景-
ギャラリーにいかわ 小藪達也

●藤原久美子門下生能面展
神戸町文化会館 森島昭道

●羽島円空作品展
羽島市文化会館 森島昭道

◇7月
●第53回 西濃地区美術教育者展
大垣市文化会館 久保田正剛 小藪達也
西脇義照 森島昭道 山田芳之

●六酔会市民病院展
大垣市民病院 森島昭道 山田芳之

◇8月
●大垣西濃信用金庫ロビー展示(能面)
大垣西濃信用金庫 森島昭道

●第1回 南美展
大垣フォーラムホテル
久保田正剛 西脇義照 山田芳之

●羽島円空作品展
羽島郷土資料館 森島昭道

●第40回記念 沓井会展
みんなの森ぎふメディアコスモス 西脇義照

●ぎふ美術展
岐阜県美術館 小藪達也

◇9月
●第35回 西濃美術展
大垣市文化会館
久保田正剛 小藪達也 西脇義照

森島昭道 山田芳之

●羽島円空作品展
羽島市民族資料館 森島昭道

●第22回 源流展
岐阜県美術館 一般展示室 小畑恭子

●第43回 羽島市美術協会展
不二羽島文化センター 小畑恭子

◇10月
●神戸町美術展
日比野五鳳記念館 審査員出品 久保田正剛

●第74回 岐阜市美術展
岐阜市文化センター 審査員出品 小畑恭子

●第71回 大垣市美術展
大垣市文化会館
審査員出品 久保田正剛 小藪達也 西脇義照

●垂井町美術展
垂井町文化会館 審査員出品 久保田正剛

●第56回 養老町美術展 養老町民会館
審査員出品 久保田正剛 西脇義照

●文月の会展
カフェ&ギャラリー ジャック&ベティ 大島満男

●第32回 藍画会展
岐阜市民会館 大橋壯久 山田晃平

●大垣共立銀行ロビー展示(能面)
大垣共立銀行駅前支店 森島昭道

◇11月
●蒲郡市民文化祭 絵画展
蒲郡市博物館ギャラリー
岡本勇夫 鈴木啓子 片野泰人

●南地区センター作品展(能面)
大垣市南地区センター 森島昭道

●第45回 養老町美術協会展
養老町民会館 久保田正剛 西脇義照

●第25回 養老教職員作品展
養老町民会館 久保田正剛 西脇義照

●藤原久美子と門下生による能面展
養老町民会館 森島昭道

◇12月
●岐阜県有名人チャリティー色紙展
岐阜マーサ21 西脇義照

◇3月
●養老絵画教室作品展
養老町民会館 西脇義照
(西脇義照・山田芳之 記)

長野支部 NAGANO

◇2022年 活動報告
■支部活動

●準備会 5月14日 トイーゴ
会計監査 役員引継ぎ

●第55回 長野支部展 展示・研究会
6月14日 講師 碓田順彦委員・やまぐちかずお委員
参加者20人

●支部展 6月15日～19日 松本市美術館
出品作品 絵画 22点
彫刻 2点

■個展・団体展等
●小林一夫 彫刻展
3月26日～4月3日 京都つばみ堂

●信州現代美術展ピエンナーレ
4月2日～10日 北アルプス展望美術館
出品者 やまぐちかずお 林 政人

●第52回 日本水彩長野支部会員展
4月19日～24日 ホクト文化ホール
出品者 碓田順彦 横山優子

●第75回 女流画家協会展 6月7日～13日
東京都美術館 市川孝子

●第73回 北信美術展
6月23日～27日 長野県立美術館
無審査 碓田順彦
審査員 松川勝男
出品者 市川孝子 小林明子 田中 渉
峯村欣弘 横山優子 吉池仁美
金田真由美 小池華子 高橋文夫
西澤裕美子 平坂典子 水上さおり
吉原悦子 清水和明 深澤友紀子

●第109回 日本水彩展
6月23日～30日 東京都美術館
参与 碓田順彦
会友 横山優子

●峯村欣弘絵画展～ヨーロッパの世界遺産～
7月1日～30日 篠ノ井 喫茶アイ
絵画 12点出品

●第74回中信美術展
7月2日～10日 松本市美術館
出品者 やまぐちかずお 林 政人

●丸田恭子×小林一夫展
7月10日～23日 佐久平 元麻布ギャラリー

●北信美術会作品研究会
7月24日 安茂里公民館 講師 碓田順彦

●第15回 地域現代作家代表作展 8月2日～14日
松本市美術館 出品者 やまぐちかずお

●第74回 長野県展

9月25日～10月2日 長野県立美術館
無審査 碓田順彦
審査員 松川勝男
出品者会員 市川孝子 田中 渉 林 正人
松川勝男 水上さおり 峯村欣弘
やまぐちかずお 横山優子
高橋文夫

一般入選者 小池華子 清水和明 吉原悦子

●第34回 彩友会水彩画展
11月9日～14日 もんぜんプラザ
講師出品 碓田順彦

●第17回 みゆき野風景画展
11月12日～12月10日
木島平村中町展示館 審査長 碓田順彦

●令和4年 松川勝男 展
12月5日～25日 アートエム店内

●第16回 アートエム絵画展
2023年3月21日～26日 ギャラリー82
出品者 小林明子 松川勝男 峯村欣弘
横山優子 吉池仁美 金田真由美
小池華子 西澤裕美子 平坂典子
水上さおり 吉原悦子 宮下久仁
清水和明 深澤友紀子
(峯村欣弘 記)

石川支部 ISHIKAWA

■支部活動
●本展作品研究会
8月20日 インプレス

●本展反省会
11月6日 学びの杜ののいちカレード

●一陽会石川支部WEB展覧会
11月30日～12月4日 石川県立美術館
本部より濱田清運営委員を招聘し作品講評会
懇親会を開催

●2023一陽会石川支部新春展
1月24日～29日 金沢21世紀美術館

■個展
●大嶽英治レリーフ展 3月25日～28日
アトリエKAZU 大嶽英治

●丸山政廣個展 4月1日～30日
北陸銀行小松京町店 丸山政廣

■グループ展
●第9回 一国会展 3月3日～8日
白山市ギャラリーノア 竹田明男 白井正浩

- 野々市市椿まつり 3月12日～13日
野々市市文化会館フォルテ 竹田明男
 - 第58回 こまつ的美・入札展 5月
小松・サイエンスヒルズこまつ 安田 淳
 - CAFネビュラ金沢展 5月
金沢21世紀美術館 安田 淳
 - 能美市作家協会N展 5月21日～29日
根上学習センター 阿部正子 田方 勇
後出秀茂 山崎綾乃
 - 能美市絵画協会展 7月16日～24日
根上学習センター 阿部正子 田方 勇
後出秀茂 山崎綾乃
 - 第27回 七尾美術作家協会展 7月15日～18日
七尾美術館市民ギャラリー 巻砂紀恵
 - 第7回 日本美術家連盟北陸地区会員展 8月
富山県民会館美術館 安田 淳
 - サムホール展「煌めき」 8月4日～21日
津幡町かつぎきロビー ギャラリー由 川村甚子
 - 能美市作家協会展 8月16日～22日
根上学習センター 阿部正子 田方 勇
後出秀茂 山崎綾乃
 - 能美市辰口展
9月26日～10月7日 後出秀茂
 - 大場吉美×齋藤久子×三井泰子
インスタレーション3人展 10月4日～16日
石川国際交流サロン 企画出品 大場吉美
 - 2022 CAFネビュラ展 11月
埼玉県立近代美術館 安田 淳
 - 津幡町作家協会展 11月4日～10日
シグナス文化会館 川村甚子
 - 能美市作家協会N大作展 11月19日～27日
根上学習センター 阿部正子 田方 勇
後出秀茂 山崎綾乃
 - 第59回 歳末助け合い入札展 12月2日～4日
寺井地区公民館 田方 勇
 - 能美市歳末展 12月2日～4日
能美市福祉会館 阿部正子
 - 第62回 歳末美術展
12月8日～15日 金沢香林坊大和
大場吉美 竹田明男 安田 淳 柴山桂子
西山恭申 白井正浩 阿部正子 小島信子
田方 勇 巻砂紀恵
 - 第28回 七尾美術作家協会チャリティー展
12月5日～9日 ギャラリーかわも 巻砂紀恵
 - 第11回 野々市市美術協会展 2月5日～12日
学びの杜のいちカレード 竹田明男
西山恭申 尾山隆夫
- 公募展

- 第78回 現代美術展 4月1日～18日
(洋画)石川県立美術館
副理事・審査副委員長出品 大場吉美
常任委員出品 竹田明男
委員出品 安田 淳
会員出品・審査員出品 柴山桂子
会員出品 西山恭申 白井正浩
尾山隆夫 川村甚子 後出秀茂
(一般)
次賞 小島信子 田方 勇 巻砂紀恵
北國賞 阿部正子 大友史郎
佳作 中谷美和子 山崎綾乃
入選 木下 脩 田村久美子 丸山政廣
(彫刻)金沢21世紀美術館
会員出品 大鍬英治
(写真)石川県立美術館
(一般)
入選 安田 淳
 - 第61回 小松美術展 5月
小松・サイエンスヒルズこまつ 安田 淳
 - 第9回 野々市市美術展 7月1日～10日
学びの杜カレード 竹田明男 西山恭申 尾山隆夫
 - 白山市松任美術展 1月21日～29日
市民工房うるわし 木下 脩
(尾山隆夫 記)
- 茨城一陽会 IBARAKI
- ◇2022年
- 第48回 MITO彫刻展 6月24日～7月3日
アートセンタータキタ(水戸市泉町)
小宅淑子 北沢 努 鈴木しのぶ 六崎敏光、
村山悦子 森山元國 他1名
 - 茨城の美術セレクション 6月28日～7月10日
茨城県つくば美術館(つくば市) 磯山芳男 他26名
 - 石岡アート協会文化講演会 7月15日
やさど響きホール(石岡市柿岡) 講師 六崎敏光
 - ミニアチュール2022ウクライナ支援
チャリティー展
7月24日～8月7日 カフェ・リベル(水戸市南町)
岩井基生 宇留野信章 海老根美奈子 北沢 努
葛迫大祐 田邊光則 中根絢女 中村義孝
村山悦子 他102名
 - MOKSHA2022～解放・心の自由
8月16日～21日 ギャラリーゴトウ(水戸市赤塚)
北沢 努 他9名
 - 北沢努 展 — 森に棲む2022

- 10月29日～11月6日
ギャラリー手毬子(水戸市城東子)
- 美術は今、対峙する16の画面 11月13日～26日
東海ステーションギャラリー(那珂郡東海村舟石川)
小川京子 他15名
- 第27回 うしく現代美術展 11月20日～12月4日
牛久中央生涯学習センター(牛久市柏田町)
中村義孝 他59名
- 温故知新～異口同音の仲間たち展
11月27日～12月3日
東海ステーションギャラリー(那珂郡東海村舟石川)
北沢 努 他6名
- 田邊光則 作品展
12月3日～26日 結城蔵美術館(結城市結城)
- YEAR END EXHIBITION OF MINI SCULPTURES
12月5日～20日
ギャラリーせいほう(東京都中央区銀座)
中村義孝 他147名
- 木骨-再起 葛迫大祐 木彫展 12月16日～21日
ギャラリーエスパース(ひたちなか市笹野町)
- ちょっと小さな展覧会 12月14日～30日
ギャラリーサザ(ひたちなか市共栄町)
北沢 努 中村義孝 他92名
- 中村義孝 彫刻展 1月1日～9日
ギャラリーサザ(ひたちなか市共栄町)
- 東海村の作家展2023 1月8日～21日
東海ステーションギャラリー(那珂郡東海村舟石川)
海老根美奈子 鈴木しのぶ 村山悦子 他34名
- ◇2023年開催予定 千野清和 長谷川清晴 渡邊順子
(会員賞選考委員長 長谷川清晴)
- 先生たちの美術展9 1月22日～2月19日
坂東郷土館ミュージズ(坂東市山)
飯田政子 田邊光則 他18名
- 第35回 アートロード展 2月5日～11日
東海ステーションギャラリー(那珂郡東海村舟石川)
北沢 努 他40名
- 茨城の美術セレクション 3月1日～12日
茨城県天心記念五浦美術館(北茨城市大津町)
中村義孝 六崎敏光 他25名
- 第30回 土なかま彫塑展 3月19日～25日
東海ステーションギャラリー(那珂郡東海村舟石川)
北沢 努、葛迫大祐 鈴木しのぶ 村山悦子
谷津喜美代 他9名
- 彫刻とドローイング ～伝えたいかたち～
一陽会の8作家 3月23日～28日
画廊珈琲zaroff(東京都渋谷区初台)
北沢 努 他7名
(北沢 努 記)

- 新潟一陽会 NIIGATA
- 活動報告
- ◇2022年(令和4年度)
- 海の宙シリーズ〈時空を超えて〉
4月2日～11日 ギャラリー あらき 市橋哲夫
 - 若木弘美 銅版画展
5月18日～27日 ギャラリー あらき
 - 特別講座 春(風景画)
5月30日～7月6日 講師 千野清和
 - 第32回 新潟一陽会会員展 6月6日～12日
県民会館 市橋哲夫(他10名)
 - 第20回 日本美術家連盟信越地区会員展
7月4日～10日 県民会館 市橋哲夫 千野清和
 - 今展 9月9日～12日
産業文化会館 千野清和
 - 第18回 魚沼市美術展 9月9日～11日
小出郷総合体育館 審査出品 長谷川清晴
 - 第68回 一陽会 10月5日～17日
国立新美術館 市橋哲夫(他11名)
 - 特別講座 秋(静物画)
10月3日～12月5日 講師 千野清和
 - 第18回 三条市美術展 10月15日～18日
三条市体育文化会館 審査委員 長谷川清晴
 - 鈴木 力 回顧展 ふるさとを描く
10月22日～11月27日 弥彦の丘美術館
 - 第50回 新潟県美術家連盟
10月29日～11月17日
千野清和 長谷川清晴 渡邊順子
(会員賞選考委員長 長谷川清晴)
 - 時の世界 10月29日～12月18日
新潟NSG美術館 長谷川清晴
 - 第54回 加茂市展 11月3日～7日 千野清和
 - 加茂新春美術展 1月22日～11月26日
加茂文化会館 千野清和
(千野清和 記)
- 富山一陽会 TOYAMA
- 活動報告
- 美術と作品研究会
2022年 1月、3月、5月、7月、9月、10月、12月
 - ◇2月
 - 富山市美術作家連合展
富山市民プラザアートギャラリー
萩中幸雄 榎田律子 古田恵子 山本正臣
寺脇圭子 河原憲行 藤木良一 長永揚子
富岡博子 秋本美智子 板倉孝久

- 富山市洋画家連盟会員より
「令和を紡ぐ洋画の旅シリーズ」
ギャルリミレー 寺脇圭子 長永揚子
◇3月
- 砺波市美術協会会員展
砺波市美術館 山本文郎
◇4月
- 富山県洋画連盟展 内なる挑戦
富山県民会館
萩中幸雄 山本文郎 笹山満義 榊田律子
古田恵子 丸山敦子 武田清子 山本正臣
寺脇圭子 黒崎 博 河原憲行 藤木良一
長永揚子 田村昭子 秋本美智子 板倉孝久
- 富山県洋画連盟富山地区会員 第八弾
内なる風景展
富山県民会館ギャラリーC・D
萩中幸雄 榊田律子 古田恵子 丸山敦子
武田清子 山本正臣 寺脇圭子 河原憲行
藤木良一 長永揚子 田村昭子 秋本美智子
板倉孝久
- それぞれの情景展4
富山県民会館ギャラリーA 河原憲行
◇5月
- ART/X/TOYAMA in魚津
新川文化ホール 榊田律子 古田恵子
- 滑川市美術協会展
滑川市博物館 笹山満義
- 上市美術会巡回展
富山信金ギャラリー 黒崎 博
- 第68回 全日肖像展
東京都美術館 新人賞 才田峰風
◇6月
- 第77回 富山県美術展
富山県民会館
招待出品 萩中幸雄、
審査員出品 榊田律子
県展賞 高橋久仁子
奨励賞 山本正臣
入選 古田恵子 武田清子、黒崎 博
河原憲行 長永揚子、富岡博子
田村昭子 秋本美智子 板倉孝久
才田峰風 黒田真理子 大吉田誠夫乃助
- 洋画sparking'22 in庄川展
庄川美術館 委嘱 山本文郎
- トリエンナーレとなみ野美術展2022
砺波市美術館 山本文郎
- 第36回 富山市洋画家連盟展
富山県民会館美術館
萩中幸雄 榊田律子 古田恵子 山本正臣

- 寺脇圭子 河原憲行 藤木良一 富岡博子
田村昭子 秋本美智子 板倉孝久
- 富山信金八尾ショーウィンドウ展示
高橋久仁子
- 上市美術会巡回展
上市総合病院 黒崎 博
◇7月
- 富山一陽会第68回 一陽展出品事前研修会
富山県民会館美術館
大作23名出品
講評 細川 尚先生 大場吉美先生
- 富山県洋画連盟新川地区会員展
立山町交流ステーション 笹山満義 黒崎 博
- Jige展
白山市白峰ギャラリー小右衛門 榊田律子
- 七夕会作品展
アートギャラリー栄 山本正臣
- UU展
富山県民会館 黒崎 博
- 富山市工芸美術作家協会展
富山県民会館 富岡博子
- 特別公開展示
山口県柳井市図書館 才田峰風
◇8月
- グレートリープ特別展
世田谷美術館 奨励賞 高橋久仁子
- 大吉田アスモ展
井波コミュニティプラザ ギャラリーアスモ
大吉田誠夫乃助
- 第36回 上市美術展
北アルプス文化センター
奨励賞 黒崎 博 入選 才田峰風
- 上市美術会巡回展
あるぶす 黒崎 博
- 富山市洋画家連盟会員より
「令和を紡ぐ洋画の旅シリーズ」
ギャルリミレー 板倉孝久
◇9月
- 県民芸術文化際2022生活文化展
砺波市美術館 山本文郎
- 第47回 富山県青少年美術展
富山県民会館 審査員 榊田律子
- 新萩の会展
富山県民会館ギャラリーB
賛助出品 萩中幸雄 山本正臣 堀 英夫
長永揚子 田村昭子 秋本美智子
- 第18回 富山市美術展2022
富山市民プラザ
招待出品 萩中幸雄 榊田律子

- 審査員出品 古田恵子
市展大賞 秋本美智子
奨励賞 山本正臣 河原憲行 長永揚子
- 県洋連 砺波地区小品展
北日本新聞社砺波支社ギャラリー 山本文郎
- 地域の作家展
アートギャラリー栄 武田清子
- フランドル会展
富山県民会館美術館B
武田清子 河原憲行 長永揚子
- 上市美術会巡回展
北銀上市支店 黒崎 博
- 山口県柳井市伊陸ロンサムレディ号
平和記念館所蔵 才田峰風
- 上市町稗田公民館 稗田歴史書
装丁、掲載、作品寄贈 才田峰風
◇10月
- 山本正臣 作品展 富山県民会館ギャラリーD
- 上市文化展
北アルプス文化センター 黒崎 博
◇11月
- 砺波市美術展
砺波市美術館 山本文郎
- 第9回 飯田弥生賞展
飯田弥生美術館ギャラリー 奨励賞 高橋久仁子
- 野萩の会
富山県民会館ギャラリーD
賛助出品 萩中幸雄 寺脇圭子 黒崎 博
藤木良一 板倉孝久
- 越中アートフェスタ
富山県民会館
奨励賞 大吉田誠夫乃助
佳作 河原憲行
入選 才田峰風
- 第71回 富山県芸術祭美術連合展
富山県民会館
萩中幸雄 笹山満義 榊田律子 古田恵子
丸山敦子 武田清子 高橋久仁子 山本正臣
寺脇圭子 黒崎 博 河原憲行 藤木良一
長永揚子 田村昭子 秋本美智子 板倉孝久
- 富山市民大学文化祭
富山市民プラザアートギャラリー
賛助出品 萩中幸雄 長永揚子 藤木良一
田村昭子 秋本美智子
- 滑川市洋画連盟小品展
ショッピングセンターエール店内 笹山満義
- 上市町高齢者作品展
カミール 黒崎 博
- 富山市洋画家連盟会員より

- 「令和を紡ぐ洋画の旅シリーズ」
ギャルリミレー 田村昭子
◇12月
- ◇'23/1月
- 富山市洋画家連盟会員より
「令和を紡ぐ洋画の旅シリーズ」
ギャルリミレー 富岡博子
◇'23/2月
- 第33回 富山市美術作家連合会展
富山市民プラザ
萩中幸雄 榊田律子 古田恵子 武田清子
山本正臣 寺脇圭子 堀 英夫 河原憲行
長永揚子 藤木良一 富岡博子 秋本美智子
板倉孝久 (古田恵子 記)

福井一陽会 FUKUI

- 活動報告
◇2022年4月～2023年3月予定
- 福井一陽会役員会
2022年4月23日 山口伊三郎家具(貸会議室)
- 福井一陽会定例総会
6月14日 福井県立美術館(会議室)
- 研究会
7月23日 福井市きらら館(会議室)
- 福井一陽会役員会
2023年3月4日 山口伊三郎家具(貸会議室)
- 個展
- 清水正男 軌跡展 2022年4月1日～30日
清水正男ギャラリーin武周・福井市
清水正男 画廊新設OPEN
- 井上真知子 油彩画展 2022年12月2日～11日
いまだて芸術館(越前市) 井上真知子

- 公募展
- 第14回 現代童画会福井地区展
2022年4月12日～17日 福井市美術館(福井市)
大賞 松村典子
- 第35回 市美展ふくい 2022年5月27日～6月5日
福井市美術館(福井市)
絵画造形部門
審査員・審査員出品 佐川文子 清水正男
畑 透仁 西藤節子
無鑑査出品 村田宏人 石田孝子
福井市長賞 松村典子
奨励賞 横山純子

- 第10回 シルバー福井美術展
2022年7月7日~10日 ハートピア春江(坂井市)
入選 清水成子
- 第68回 一陽展 2022年10月5日~17日
国立新美術館 出品者20名
会員推挙 横山純子
会友推挙 嵐川眞智子 松村典子 吉川暁遊
奨励賞 井上真知子
初入選 1名
- 第17回 越前市民美術展 2022年11月18日23日
まさかりどんの館(越前市)
無鑑査出品 井上真知子
- 第73回 福井県総合美術展
2022年11月23日~12月4日
福井県立美術館(福井市)
絵画造形部門
審査員・審査員出品 佐川文子 清水正男
無鑑査出品 村田宏入
入選 嵐川眞智子 井上真知子 西藤節子
牧田聖代 増澤恵美子 松村典子
横山純子 吉川暁遊
- グループ展他
- ギャラリー「窓」万葉美術展
2022年4月2日~10日
万葉菊花園ギャラリー(越前市) 井上真知子
- 青の会絵画展 2022年4月7日~10日
福井県立美術館(福井市) 講師出品 清水正男
- 第45回 あおい会展 2022年4月13日~17日
ふるさとギャラリー叔羅(越前市) 井上真知子
- 第44回 カカ斜展 2022年4月13日~17日
福井県立美術館(福井市) 谷口恵子 西藤節子
- 第5回 彩友会グループ展
2022年4月16日~28日
福井商工会議所(福井市) 石田孝子
- Pino&森の仲間たち水彩画展
2022年5月25日~6月22日
カフェ&ギャラリー アダージョ(坂井市) 松原照代
- 第58回 福井一陽会小品展
2022年6月16日~19日
福井県立美術館(福井市)
嵐川眞智子 石田孝子 井上真知子
郡谷美穂子 児玉常聖 佐川文子 清水成子
清水正男 谷口恵子 西藤節子 畑透仁
武鎧恭子 真木康至 牧田聖代 増澤恵美子
松原照代 松村典子 村田宏入 横山国男
横山純子 吉川暁遊
- グループ彩展(水彩画) 2022年6月23日~26日
福井市美術館(福井市) 講師出品 佐川文子
- 井上真知子 絵画展 2022年7月11日~23日

- 塚崎誠文堂T-gallery(越前市) 井上真知子
- 日本美術家連盟 北陸展 2022年8月5日~7日
富山県民会館(富山市) 清水正男
- 日本アquareッロ巡回展 2022年8月24日~29日
きんしんギャラリー(金沢市) 松原照代
- 第41回 福井県市町文協選抜美術展
2022年9月2日~4日
勝山市体育館「ジオアリーナ」(勝山市)
嵐川眞智子 清水成子 増澤恵美子
横山国男 吉川暁遊
- 第18回 丹南芸術家協会展
2022年9月7日~11日
ふるさとギャラリー叔羅(越前市) 井上真知子
- あわら市本荘公民館祭 2022年10月22日・23日
本荘公民館(あわら市) 清水成子
- 第43回 細呂木公民館ふれあい祭
2022年10月23日
細呂木公民館(あわら市) 吉川暁遊
- 第19回 あわら市民文化祭
2022年10月29日・30日
あわら市中央公民館(あわら市)
嵐川眞智子 清水成子 増澤恵美子
横山国男 吉川暁遊
- 第19回 湯のまち公民館まつり
2022年11月12日・13日
あわら市湯のまち公民館(あわら市)
嵐川眞智子 清水成子 増澤恵美子
横山国男 吉川暁遊
- 横山純子 ミニ油彩画展
2022年11月15日~26日
塚崎誠文堂T-gallery(越前市) 横山純子
- 井上真知子 水彩画展
2022年11月22日~2023年2月10日
福井銀行今立支店(越前市) 井上真知子
- 松村典子 絵画展 2022年11月29日~12月10日
塚崎誠文堂T-gallery(越前市) 松村典子
- グループS絵画展 2022年12月15日~18日
福井県立美術館(福井市) 講師出品 清水正男



第59回 福井一陽展

- 第59回 福井一陽展
2022年11月10日~11月13日
福井市美術館(福井市)
嵐川眞智子 石田孝子 井上真知子
郡谷美穂子 児玉常聖 佐川文子 清水成子
清水正男 谷口恵子 西藤節子 畑透仁
武鎧恭子 真木康至 牧田聖代 増澤恵美子
松原照代 松村典子 村田宏入 横山国男
横山純子 吉川暁遊
- 第61回 ペンペン会グループ展
2023年3月1日~3月5日
福井県立美術館(福井市)
佐川文子 石田孝子 井上真知子 松原照代
松村典子 横山純子
- Pino&森の仲間たち水彩画展
2023年3月15日~19日
福井県立美術館(福井市) 松原照代
(西藤節子 記)

青森一陽会 AOMORI

- ◇7月
- 青森一陽会 第44回展
青森市民美術展示館(青森市) 一人3~5点出品
出品者 奥田君子 北川三千枝 対馬久世喜
土岐千佳子 福井和子 和田淳子 逢坂清悦



青森一陽会 第44回展

- ◇10月
- 第63回 青森県美術展覧会
東奥日報新町ビル New'sホール
賛助出品 逢坂清悦
一般出品 北川三千枝
- 第51回 教美展
東奥日報新町ビル New'sホール
出品者 土岐千佳子 逢坂清悦
(逢坂清悦 記)

山梨グループ YAMANASHI

- 活動報告
- 山梨美術協会展 4月 三井正人 遠藤優綾
- 山梨県民文化祭 11月 三井正人
- 山梨の作家たち 1月 三井正人 吉田光雄
- 山梨美術協会会員展 三井正人
(吉田光雄 記)

岡山グループ OKAYAMA

- グループ展
- 陽のあたる岡・第11回展 5月10日~15日
岡山市天神山文化プラザ
第3展示室でグループ展、第4展示室で新メンバー
安富洋貴の特別集中展示



陽のあたる岡・第11回展会場風景

- 個展
- 安富洋貴 鉛筆画展 夜想曲
6月1日~7日 神戸阪急新館7階美術画廊
- 安富洋貴 鉛筆画展 夜想曲
11月29日~12月5日 千葉そごう7階美術画廊
- 70代の新たな一歩 美しい驚き 泉谷淑夫 展
11月30日~12月5日 横浜高島屋7階美術画廊
(泉谷淑夫 記)

『旧作を振り返って…』

絵画部運営委員 濱田 清

HAMADA Kiyoshi



昨年2月に千葉市教育財団・千葉市民ギャラリーいなげを会場に「濱田清の世界」展を企画していただき、これまでの制作を振り返る機会となりました。この年は一陽展初出品から45年の節目の年でもありました。16日間に亘り自作に囲まれて過ごす経験は初めての事で、「何を描きたかったか」を自問する貴重な時間でもありました。少年の日に抱いた漠とした不安、そのことを想起させる原風景…冬の陽だまりの「枯れ葉」や 夕陽の「光景」を自分の切り口で画面に構成してきました。特に夕陽は何となく自分の心情表現としてフィット感があり多用してきました。掲載作品の上段3点はそれらの作品です。

東日本大震災とそれに起因する原発事故、このような想像を絶する自然災害や社会的ショックに直面すると、絵を描くことの意味や表現すべき内容が鮮明になります。福島県相馬市で小・中・高校を過ごしましたので、被災地への「思い」や「願い」の形象化を10年続けました。その中からの3点が下段の作品です。白い椅子には亡くなった方々へのレクイエムの思いを、そして毎回登場させた鯉のぼりには郷里の復興への願いを込めました。私は生き方と同じで絵づくりも器用ではありませんが、今後も弛まず描き続けたいと願っております。



第36回一陽展(1990)
「遠い日」



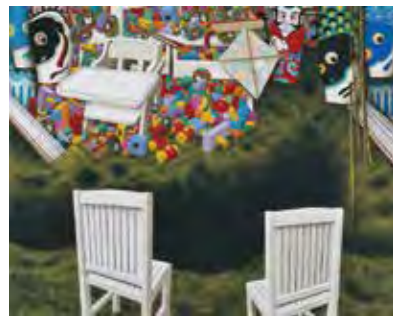
第40回一陽展(1994)
「遠い日マイペース」



第42回一陽展(1996)
「遠い日」



第57回一陽展(2011)
「遠い日(予感)」



第59回一陽展(2013)
「遠い日(13歩の距離)」



第65回記念一陽展(2019)
「風孕む予感」